▽上毛 1面

群馬大WHO協力センターに

チーム医療 世界へ人材

群馬大（高田邦昭学長）は世界保健機関（WHO）からチーム医療教育に関する「WHO協力センター」＝豆字典＝に指定され、本格的な活動を開始した。WHOと連携して研修・研究を進め、国際的にチーム医療の重要性を認識してもらい、人材育成につなげる。WHO協力センターは国内に31施設あるが、保健人材育成分野での指定は初めて。先駆的なチーム医療教育を世界に発信していく。

育成分野で国内初指定

チーム医療は医師や看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士ら専門職が連携して総合的な医療を提供する。心理面や社会的側面を含めて患者に向き合う医療として必要性が高まり、WHOが昨年に発行した保健人材育成改革ガイドラインでチーム医療教育を盛り込むなど、国際的にも重要性が増している。

指定期間は2017年7月まで。指定を受け、同大医学部保健学科長の渡辺秀臣教授をセンター長とする「多職種連携教育研究・研修協力センター」を設置。昨年フィリピンとインドネシアから大学教員や政府職員を受け入れて研修を実施するなど活動を開始した。

今後は引き続きアジア地域の教育関係機関から教員らを招いたり、逆に国外へ講師を派遣するなどしてノウハウを提供する。国際シンポジウムの開催や国際学会への参加によりチーム医療教育への理解を広めていくほか、同教育の効果について科学的研究を進める。

渡辺センター長は「チーム医療教育の普及を目指す。医学科や病院、県内の他大学とも連携していきたい」と話した。

同大医学部は1999年、他大に先駆けてチーム医療を実践できる人材を育成するカリキュラムを保健学科で導入。2008年から医学科の参加も始まった。さらに同年、チーム医療教育を行う大学に呼び掛け、日本インタープロフェッショナル教育機関ネットワーク（JIPWEN）を設立。計11大学が参加し、WHOと共にチーム医療教育の国際的な普及活動を進めてきた。WHO協力センターとしての活動にも、JIPWENと連携しながら取り組む。

高田学長は「群馬大が多職種連携の分野で主導権をとり、世界の中心となっていくための第一歩。『チーム医療といえば群馬大』というところまで持っていきたい」と話している。

豆字典

WHO協力センター WHOの事業をサポートするために指定される研究・実験施設。世界の約80カ国に計800機関以上がある。国内では放射線医学や感染症、口腔保健などの分野で群馬大を含む27機関31施設が指定されている。